

会 議 記 録			
会 議 の 名 称	決算特別委員会 産業建設分科会		会議場所 第3委員会室
			担当職員 三宅
日 時	平成25年8月2日(金曜日)	開 議	午後 1 時 30 分
		閉 議	午後 2 時 55 分
出席委員	福井 ○菱田 井上 馬場 小島 齊藤 日高 湊		
出席理事者			
出席事務局	阿久根副課長、三宅		
傍聴者	市民1名	報道関係者 名	議員 名

会 議 の 概 要

13 : 30

1 開議（委員長あいさつ） 事務局日程説明

2 事務事業評価対象事業の選定

< 福井委員長 >

前回抽出した7項目について、論点を整理し3項目程度に絞り込みたい。別紙に基づき検討を行う。なお、選定にあたって留意すべき事項として前回確認した点を再度確認しておく。

- ・国、府の補助事業よりも市単費又は主に一般財源による事業
- ・事業開始から一定年数経過し、平成26年度以降も継続予定の事業
- ・国、府等が行う他の事務事業や市の所管する他の事務事業と事業目的や成果が重複している事業
- ・市民に関心の高い、市民生活と密接した事業
- ・社会情勢や市民ニーズの変化等に対応し、新たな視点を導入して改善すべき事業等

農業担い手づくり育成事業経費（担い手養成実践農場整備支援事業関連経費）
（事務局、別紙に基づき説明）

< 福井委員長 >

提案者の菱田副委員長より、論点を説明願いたい。

< 菱田副委員長 >

担い手育成に係り一定の支援が図られているが、実際にどの程度活用されているのか、担い手の増加策、特にUターン就農者への対応について、現状を評価し、今後の方策を議論したいと考えている。

< 日高委員 >

担い手養成実践農場整備支援事業の制度について説明願いたい。

< 福井委員長 >

事務局より説明を。

< 事務局 >

京都府が市町村と連携して支援する事業であり、研修期間最大2年間において、研

修用農地の確保、技術指導者による指導、簡易な周辺整備の実施、研修用農業機械等の整備、住宅改修や家賃補助等の支援メニューにより、助成を受けることができる制度である。

< 菱田副委員長 >

要は、就農希望者が農業をできる環境をソフト、ハード両面から支援することが事業の趣旨であり、事務局の説明にあった支援策を受けられるものである。また、資料中、農の担い手新規就農支援事業に係る指導者への助成経費については、別事業のものであり、本事業と直接的な関係はない。

< 福井委員長 >

例えば、より議論を深めるために、事務事業評価を行うまでに担い手の意見聴取なども考えてみてはと思うところである。

< 馬場委員 >

事業そのものが数量的に表されているのに人の顔が見えないということである。行政の説明だけではなく、現場の声を聴取することは、効果の検証、改善策の検討に資するものである。

< 齊藤委員 >

議論すべき点はあるが、7項目あるので、順次各項目について論点を明確にできるものを先に整理すべきでは。

< 福井委員長 >

そのとおり進行する。

中山間地域等直接支払推進事業経費

(事務局、別紙に基づき説明)

< 福井委員長 >

国の事業であり、評価によりどのような効果が期待されるのか難しいと感じるが、提案者の齊藤委員いかがか。

< 齊藤委員 >

了。

商工業振興対策経費(商店街活性化事業関係)

(事務局、別紙に基づき説明)

< 福井委員長 >

提案者の齊藤委員より、論点を説明願いたい。

< 齊藤委員 >

種々の商店街振興施策が図られているが、それによって前年に比べどれだけ売り上げが増えたのか、集客があったのかという分析ができているのか、単なるばら撒きでは商店街のためになっていない。道路アクセス向上により買い物客は市外に出ている現状であり、ますます商店街は疲弊していく。イベント補助においても何の効果もないようでは、今後どうしていくべきか考えていかなければならない。

< 馬場委員 >

商店街がやりたいことと行政が主体的にやるべきことが不鮮明である。今後、大井町南部土地区画整理事業等で大型ショッピングセンターが進出してくる中、既存商店街をどのように振興していくのか議論すべきである。また、商店街でも商店よりも民家が多い状況になっており、どのように支援していけばよいのか、決算を通じて考えていかなければならない。

< 井上委員 >

商店街の親睦会のようなイベントとなり、景品等も普段商店街で買い物をしない方に当たっており、あまり意味がないと感じている。また、行政側からは、集客に向けた商店街への働きかけが見られない。行政と商店街との対話を通じた中での活性化策を考えるべきである。

< 湊委員 >

過去の決算において評価、指摘している。それを踏まえての内容となっているのか。

< 事務局 >

23年度に実施した事務事業評価では改善とした。その評価を踏まえての平成24年度決算の内容である。

< 湊委員 >

その検証ができていない。議会は指摘や要望を行うが無責任なところがあり、過去に行った評価項目について検証する視点も必要である。

< 齊藤委員 >

改善とは予算増を指すものではない。改善に向けて取り組むために必要な予算であるならば、効果があるはずである。そこを考えなければならない。

< 福井委員長 >

過去の評価結果に対する取り組みの検証も含めて評価を行いたい。

観光推進経費（観光PR活動推進経費）

（事務局、別紙に基づき説明）

< 福井委員長 >

PR効果がどのように表れているのかという抽出理由であったが、提案者の井上委員より論点を説明願いたい。

< 井上委員 >

予算充実によりPR活動を推進しているが、その効果を検証するとともに、新たに取り組んでいるスマートフォンアプリ等の説明を受け、事務事業の論点にしたい。

< 福井委員長 >

施策の充実は平成25年度予算に係る内容であり、決算審査の趣旨としてどうかと思う。その効果の検証という意味では来年度以降のほうがよいと思うがどうか。

< 馬場委員 >

本年度予算を増額して充実が図られているので、平成24年度決算では取り上げない方がよい。

< 井上委員 >

新規施策以外にも関心のある事業があるが、来年度以降で了解する。

道路維持経費（道路の維持修繕、交通安全施設の整備工事）

（事務局、別紙に基づき説明）

< 福井委員長 >

馬場委員からの提案である。論点を明らかにされたい。

< 馬場委員 >

地域こん談会でも最も要望の多い事業であるが、予算的に対応困難な面がある。年々増加傾向にあるが、その中で市の方策を見極め、国、京都府、市の責任の所在、連携、役割分担を明確にしていきたい。

< 福井委員長 >

道路の維持修繕と交通安全施設整備のどちらかに絞り込んだ方が議論しやすいと思われるがいかがか。

<馬場委員>

維持修繕のハード面だけでなくソフト面を合わせて検討すべきである。

<湊委員>

国、府、市の役割を明確にすることを論点にすることは困難。現場により対応も異なる。交通安全施設整備に絞って考えてはどうか。鋭意取り組まれている。

<福井委員長>

交通安全施設整備事業として整理する。

橋梁維持経費（橋梁長寿命化修繕計画策定）

（事務局、別紙に基づき説明）

<福井委員長>

計画策定業務について評価することとなるが、提案者の井上委員より論点の提示を。

<井上委員>

380橋もの多くの橋梁があるが、一般的に橋梁の老朽箇所に対する維持修繕は目に見えにくく、今後の財政計画との整合等、策定業務そのものよりも今後の計画について論点にしたい。

<福井委員長>

他に意見がなければ進行する。

緑花推進経費

（事務局、別紙に基づき説明）

<福井委員長>

観光施策として充実を図るべきとの抽出理由であったが、日高委員より補足を。

<日高委員>

観光施策とのすみ分けが不明である。またオープンガーデンは花と緑の会が主催している事業であるが、緑花協会との関係を確認したい。総じて効果的な予算となっているのか検証したい。

<福井委員長>

暫時休憩する。

（休憩 14：25～14：30）

<福井委員長>

会議を再開する。

以上の7項目について順次確認を行ったが、どのように選定すべきかご意見を。

<井上委員>

各委員、希望する3項目の多数決でどうか。

<福井委員長>

各項目について、各委員の挙手を求める。挙手は一人3回とする。

農業担い手づくり育成事業経費（担い手養成実践農場整備支援事業関連経費）

挙手 6人

中山間地域等直接支払推進事業経費

挙手 なし

商工業振興対策経費（商店街活性化事業関係）

挙手 6人

観光推進経費（観光PR活動推進経費）
挙手 なし
道路維持経費（交通安全施設整備事業）
挙手 3人
橋梁維持経費（橋梁長寿命化修繕計画策定）
挙手 4人
緑花推進経費
挙手 2人

<福井委員長>

、 は挙手6人であるため決定する。 については委員長としては賛同しかねるが。

<事務局>

については、決算審査であるので、橋梁長寿命化修繕計画の策定業務の手法、成果等について評価することとなるので、その点を確認願いたい。 については、交通安全施設整備事業に整理されたが、その論点は明確にされていない。

<齊藤委員>

の交通安全施設整備事業については、立場により見解は異なる点もあり対応が困難な状況もある。

<井上委員>

橋梁の長寿命化計画はどのような内容で今後の方向性がどのように示されているのか、検証すべきである。

<馬場委員>

については、橋梁長寿命化計画の内容について十分勉強する必要がある。

<日高委員>

国では長寿命化計画のマニュアルを策定されており、それに基づいた内容の評価することとなる。

<福井委員長>

、 に一旦決定し、論点を整理していきたい。＜了＞

この3項目について、現地視察等の必要はあるか確認しておきたい。

<井上委員>

の担い手育成支援施策に係り当事者を参考人として意見聴取したい。また、 の橋梁長寿命化修繕計画に係る事前説明を求めたい。

<齊藤委員>

の商店街活性化に係り、商店街が何を望んでいるのか、事業者の意見を求めたい。

<福井委員長>

以上の意見を踏まえ、審査日程に入る前に意見聴取の場を設けたいと考える。

内容については、実施できる項目を調整するので、正副委員長に一任願いたい。

＜了＞

3 その他

次回の分科会開催：8月28日（水） 午前10時

内容：決算事務事業評価項目に係る調査

（正副委員長において調整）

<福井委員長>

9月12日の決算特別委員会において、分科会において選定した3項目のうち1項目を題材にして論点整理等の勉強を行うこととなった。本分科会においてどの項目を選定するかについては、正副委員長に一任願いたい。＜了＞

～ 14：55